

# 石手川ダム事前放流実施要領

令和2年3月

国土交通省 四国地方整備局  
松山河川国道事務所 石手川ダム管理支所

(通 則)

第1条 石手川ダム操作規則（以下「規則」という。）第18条第1項第二号及び石手川ダム操作細則（以下「細則」という。）第7条第四号に基づき、石手川ダムの洪水調節機能の向上のために洪水前に利水容量内に貯留された流水を放流（以下「事前放流」という。）するにあたっては規則、細則に定めるもののほか、この実施要領に定めるところによる。

(事前放流水位)

第2条 事前放流水位は、標高198.2メートルを限度とする。

ただし、降雨の状況やその時の貯水位の状況等により、198.2メートルより水位を低下させることが可能な場合は、別途、利水者と協議のうえ、四国地方整備局長の承認を得て198.2メートルよりも水位を低下させることが出来るものとする。

(事前放流の範囲)

第3条 事前放流は、標高201.2メートルから標高198.2メートルの間に貯留された流水を対象とする。

(事前放流の原則)

第4条 事前放流は、ホロージェットバルブ及びコンジットゲートにより実施するものとする。

2 事前放流は、毎秒100立方メートルを上限として、放流により下流に急激な水位の変動が生じないように以下の増加量を上限として事前放流を実施するものとする。

放流の直前におけるダムからの放流量	10分間の放流量の増加量
毎秒10立方メートル未満の場合	毎秒2立方メートル以内
毎秒10立方メートル以上 50立方メートル未満の場合	毎秒10立方メートル以内
毎秒50立方メートル以上 100立方メートル未満の場合	毎秒15立方メートル以内

3 事前放流は、気象、水象、その他の情報により、放流量の緩和、定量放流への移行または絞り込み操作等の放流量の調整を行うものとする。

4 事前放流は、標高198.2メートルを限度とし、今後の予測雨量やダム流入量の予測計算に基づき回復可能な水位を低下することを基本とする。

(事前放流の実施)

第5条 松山河川国道事務所長（以下「所長」という。）は、次の各号の一に該当し、洪水調節が必要と認められる場合には、標高198.2メートルを限度として、あらかじめ貯水位を低下させることができる。

- 一 気象、水象、その他の状況により、予測最大流入量が毎秒200立方メートル以上、またはダム上流域の予測降雨量が基準降雨量である90mm（／6時間）以上であるとき。
- 二 その他の状況により、所長が事前放流の開始の必要性を認めたとき。

2 事前放流水位を確保した後は、流入量が毎秒300立方メートルに達するまでは、当該水位を維持するよう努めるものとする。

(事前放流に関する通知等)

第6条 所長は、第5条の規定により事前放流を実施する場合にあたっては、あらかじめ別表－1に掲げる関係機関にその旨を通知するとともに、事前放流を開始するときは、一般への周知を行うものとする。

なお、一般に周知させるため必要な措置は、管理庁舎警報所より河口までの区間とする。

(事前放流に関する通知等の方法)

第7条 事前放流に関する通知等は、次の各号に定める方法により行わなければならない。

- 一 関係機関に関する通知は、別表－1に掲げる関係機関に対し、事前放流を行う約1時間前に行うものとする。
- 二 一般に対する周知は、別表－2に掲げる各警報所地点の水位が上昇すると予想される約30分前に行うものとする。

2 サイレンが設置されている警報所は、スピーカーによる周知を行った後、直ちに、サイレンの吹鳴を行うものとする。

(サイレンの吹鳴方法)

第8条 サイレンの吹鳴方法は、次に定める方法によるものとする。

(50秒)	(5秒)	(50秒)	(5秒)	(50秒)
吹 鳴	休 止	吹 鳴	休 止	吹 鳴

2 所長は、停電その他の理由により必要と認める場合は、サイレンの吹鳴を擬似音吹鳴に切り換えることができる。

(警報車による警報の方法)

第9条 警報車による警報は、警報車2台により別表－3に掲げる経路にそって、各地点の水位が放流によって上昇すると予想される約30分前に行うものとする。

2 前項の周知措置は、ダムからの放流により上昇する水位の変動等をスピーカーにより放送し、必要に応じてサイレンを吹鳴することにより行うものとする。

(事前放流の中止等)

第10条 所長は、事前放流を行っている場合において、次の各号の一に該当するときには、当該放流を中止し、貯水位の回復に努めなければならない。

一 気象、水象その他の状況により、事前放流を行う必要がなくなったと認められるとき。

二 その他事前放流を継続することが適当でないと認められるとき。

2 利水者から申し出があった場合は、事前放流を行わないものとする。

(事前放流の中止等に関する通知等)

第11条 所長は、第10条の規定により事前放流を中止する場合にあたっては、あらかじめ別表－1に掲げる関係機関にその旨を通知する。

附 則

この要領は、令和2年3月31日から適用する。

別表－１（第６条、第７条、第１１条関係）

## 関係機関

関係機関	備 考（所在地）
四国地方整備局	高松市サンポート３番３３号
愛媛県河川港湾局	松山市一番町４－４－２
松山市消防局	松山市本町６丁目６－１
愛媛県警察本部	松山市南堀端町２－２
伊予消防等事務組合 松前消防署	伊予郡松前町筒井８０９番地１
NHK 松山放送局	松山市堀之内５



別表－２（第７条関係）

## 警報所

局舎名	所在地	種別	能力
管理庁舎	松山市宿野町乙 69-3	サイレン スピーカー	3.7KW 50W
宿 野	松山市宿野町乙 291	サイレン スピーカー	3.7KW 50W
末	松山市末町 244-1	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
食 場	松山市食場町甲 294	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
溝 辺	松山市溝辺町 65	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
岩 堰	松山市石手 2 丁目 1	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
道 後	松山市石手 3 丁目 1	スピーカー	50W
湯 渡	松山市樽味 1 丁目 8	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
日之出	松山市日の出町 9	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
新 立	松山市日の出町	スピーカー	50W
多 賀	松山市永木町 1 丁目 4	スピーカー	50W
永 木	松山市永木町 2 丁目 1	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
祇 園	松山市祇園町 14	スピーカー	50W

局舎名	所在地	種別	能力
柳 井	松山市柳井町 1 丁目	スピーカー	50W
立 花	松山市立花町 4 丁目 6	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
室 町	松山市室町 1 丁目 1	スピーカー	50W
末 広	松山市拓川町 8	スピーカー	50W
小 栗	松山市小栗 1 丁目 1	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
朝生田	松山市朝生田 4 丁目	スピーカー	50W
和 泉	松山市和泉北 3 丁目	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
下河原	松山市和泉北 3 丁目	スピーカー	50W
市 坪	松山市保免町	スピーカー	50W
保 免	松山市保免中 3 丁目	サイレン スピーカー	2.2KW 50W
余 戸	松山市出合町	サイレン スピーカー	3.7KW 50W
松 前	伊予郡松前町北川原	サイレン スピーカー	5.5KW 50W
松前 SP1	伊予郡松前町北川原	スピーカー	50W
松前 SP2	松山市東垣生町	スピーカー	50W
松前 SP3	伊予郡松前町西高柳	スピーカー	50W

別表－3（第9条関係）

	第1号（右岸側）警報車の経路
	第2号（左岸側）警報車の経路

